

1 取組名称

理系学生グローバル化推進活動の更なる深化

2 取組組織等

理工学研究科／都市教養学部理工学系

3 取組実施代表者名

理工学研究科分子物質化学専攻 准教授 好村 滋行

4 取組年度期間

平成 28 年度

5 取組の概要

本取組の目的は、グローバルに活躍できる理系人材の育成を最終的な目途として、留学、海外インターンシップ、国際会議での発表、外国人研究者とのディスカッション等で理系学生（大学院生、学部生）に必要な実践的英語力を養成することである。Introductory Stage（英語の基本をマスター）、Communication Stage（英語で話す極意）、Presentation Stage（英語によるプレゼン方法と実践）、Academic Writing Stage（論文の書き方）の 4 段階のプログラムから成る、English Village をコアプログラムとして、留学や海外インターンシップと連動しながら、大学院生、学部生の実践的英語力養成の支援を行う。

これにより、学生達は余裕を持って留学等に向きあい、専門性に加えて自信と自立心、国際的視野を涵養することができる。理工学研究科・理工学系全体として組織的に運営に取り組むことで、学生への浸透を図り、裾野を広げることも目的の一つである。

6 事後評価の総合評定

4. 3 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 実践的な英語力と国際的視野を育成するうえで、効果的な取り組みである。
- 「国際的な舞台」を学生に実体験させることで、自らは気づいていない潜在的能力を引き出させるといった、実践的な取り組みであると評価できる。広義の理系の各研究科から、多くの学生が参加している点も、全学的な波及という点で、高い評価に値する。これを契機として、当該学生が真にグローバルに活躍できる人材となることが望まれる。
- 将来的には、正規の授業に組み入れることも検討いただきたい。